

「独立独歩」

十五代 沈 壽官



先日、ラジオを聞いていたら、懐かしい声
が聞こえてきた。宮田輝アナウンサー、
NHKの歴史に残る方で確か国会議員にもな
られた方でもある。

番組のタイトルは覚えていないが、京都の
木津川に関する番組で地元の方と対談されて
おられた。

何気なく聞いていたが面白かった。特にこ
んな件である。

「この木津川は毎年三名ほど子供が溺れ
死によります。皆が泳げるようにせなあきま

せんなあ」と言う地元の方に宮田アナが、
「そうですね。皆が泳げるようにならなけれ
ばいけませんね」とさりと返している。

今なら、どうだろう。

毎年、三人も子供が水浴びをしていて亡く
なるとなると、当然ながら「遊泳禁止」とな
るに違いない。

それを、皆がこの激流を泳ぎきれるようにならなければいけませんね、と語る大人達。

このポジティブで逞しい思想がああ頃の
日本には存在した。その中で育った子供たちは、心身共に逞しく、かつ危険に対して慎重で注意深くなった。

経験させないで、無事に大人になった人と、危険を予知できる経験を積んだ人とはまるで違う。

この話しはまだ続き、確か宮田アナが

「そうなるとオリンピック選手も育つかも知れませんか」と言うと、地元の方は苦もなく「そうですね。そんなのに放り込んでみましようか」と言つてのける。

思わず声を出して笑つてしまった。

強く逞しい日本があった。

そんな折、荷物を整理していたら13代婦人沈ハマノ（浜野）が76歳の時、息子である14代沈壽官に向けて書いた習字を見つけた。

当時、父は50歳をとうに越えているが、そこには「独立独歩」と書かれてあった。

常に最愛の息子に向けられる厳しい視線。逞しく自立して欲しいと願う本物の愛情を感じた。

この13代婦人はいくつものエピソードを持つ。

以前、テレビマンユニオンの「遠くへ行きたい」という番組のロケが来たことがある。旅をするのは俳優の渡辺文雄氏。東大卒の俳優で様々な役柄をこなした名優である。

彼が我が家に来着した時、父はまだ配達から帰つていなかった。そこで、この沈ハマノが玄関に小柄で痩せた身体でキッチンと正座して「息子はまだ帰つて来ておりません。しばらくお待ちください」というと、渡辺さんは、軽い気持ちで「薩摩には良か男がたくさんいるらしいですな」と言った。

すると明治生まれで、女子師範の教師まで勤めた13代婦人は「いいえ、薩摩の良か男の半分は関ヶ原の戦いで死にました。残りの半分は西南の役で亡くなりました。今、薩摩には良か男は一人もおいはん」と言つてのけた。

これを聞いた渡辺さんは言葉を失い、ようやく「薩摩には良かオナゴがおりますなあ」というほかなかった。

孫の私たちにも本当に大きな祖母だった。

僕には「カズちゃん（僕の名前）。車は婆ちゃんが買ってあげるからね。そのために沢山お金を貯めてるからね。ワーゲンでも何でも好きな車を買いなさい。」と言っていたが、祖母が亡くなり父に話すと36万円の貯金をしていくれたらしい。そのお金では車は買えない。すると父が「君はこのお金でヨーロッパに行つて来なさい」と言い、僕は学生だけのツアーでヨーロッパの旅をするこゝとが出来た。祖母には36万は大金だったのだ。

沈の家に嫁ぎ、留守がちな夫の代わりに五人の子供達を育てた。畑を耕し、米を育て、

職人と共に働いた。

その人が76歳で息子に贈った「独立独歩」の言葉。

僕も、この言葉を深く心に刻み自分に改めて言い聞かせたものでした。

